

令和５年度「中学生オンライン交流会」報告書

1 目的

青梅市の将来を担うこどもたちが、それぞれのテーマについて他校との意見交換・交流を通じて、市政運営に対し、興味・関心をもってもらうとともに、こどもたちの声を市政運営に反映させることを目的として開催する。

2 日時

令和５年１２月２０日（水）

午後３時００分から午後４時００分まで

3 会場

各学校間と市役所で実施（オンライン開催）

4 参加生徒

中学校１０校 ４５名

5 実施概要

(1) 当日スケジュール

15:00	開会	2分
15:02	説明・注意事項	3分
15:05	グループごと意見交換	40分
15:45	発表（各グループ2分以内）	10分
15:55	市長・教育長講評	5分
16:00	閉会	2分

(2) 当日の役割分担

全体司会…第一学校

開会挨拶…第七中学校

閉会挨拶…吹上中学校

グループリーダー・発表…「7 テーマ」の網掛けの学校

6 オンライン交流会で話し合う内容

(1) 「7 テーマ」のグループごとに、各校２名ずつに分かれる。

(2) 事前に各校で話し合ってきたワークシートをもとに意見交換を行う。

(3) グループで話し合ったことを２分間で発表する。

7 テーマ

テーマ	中学校
「みんなが通いやすい、より良い学校にするために」	第一中、第六中、 新町中
	第二中、第七中、 泉中、
	第三中、西中、 霞台中、吹上中
「みんなが住みたい、より良いまちにするために」 視点①ゼロカーボンシティに向けた取組 視点②こどもから高齢者まで誰もが安心して暮らせる支え合いのまちづくり	第二中、西中、 泉中
	第三中、霞台中、 新町中
	第一中、第六中 第七中、吹上中

8 発表内容

(1) 「みんなが通いやすい、より良い学校にするために」

ア より良い学校を目指すために生活面、学校面、社会面の3つから考えました。生活面では、挨拶、給食などを通して学校生活を充実させること、仲良くなるために笑顔で過ごしたり、挨拶運動をすることが大切という意見がでました。

学校面では、他学年や他校と交流して仲をよくしたり関係をつくったりすることが大切です。

最後に社会面では、SDGsなど持続的な社会を目指すために中学生ができることについて活動するということを話し合いました。これらのことから、より良い学校を目指していきます。

イ みんなが通いやすい、より良い学校とは、個性を尊重する学校だと思います。理由は、ありのままの自分でいられることで自信を持って登校できるからです。また、いろいろな種

類のレクを行ったり得意を増やす場所を増やしていこうと思います。また、市への要望として、いろいろな立場の人が意見を言えるよう、講演会などを行ってほしいと思います。

ウ グループで出た主な意見は、挨拶運動についてと、男女差別がない学校などです。挨拶運動については、吹上中ではポスター作り、三中では看板作りなどが出ました。また市への要望に関しては、学校だけでなく青梅全体で挨拶運動に取り組みたい意見がでました。この意見では、私たちの手で青梅市を良くしていきたいという想いがあり地域の人と関わったり、より良い関係ができれば良いと思ったからです。

また、男女差別がない学校にするためには、学ランの廃止やアンケートをとるなどの意見が出ました。まず初めに生徒の皆さんから意見をもらうことから始めていきたいと思います。

(2) 「みんなが住みたい、より良いまちにするために」

ア 私たちのグループでは、地球温暖化が進むとどうなるかについては、気温上昇による生物の減少、食料や水不足、海面上昇での異常気象などがあげられました。二酸化炭素を減らすためにどんなことをすればよいのかについては、生活資源のリサイクル、水素自動車や電気自動車の普及、学校の蛍光灯をLEDにする、木々を増やすなどがあげられました。子どもや高齢者、からだの不自由な人など全ての人がみんなで支え合い安心してくらししていくためにはどんなまちになっていくのが良いかについては、バリアフリー、ピクトグラム、相手のことを尊重する、地域での交流を増やすなどがあげられました。最後にこのようなまちにするためにどんなことをすれば良いのかについては、学生のうちに差別に対する理解を増やすことや、外国人観光客を増やす取組を行う、英語表記の看板を増やすなどの意見があげられました。

イ ゼロカーボンシティでの取組みでは、地球温暖化が進むとどのようなことが起こるかについて、気温上昇や、生態系が崩れる、食料不足に陥ったり、台風や大雨などの自然災害多

く起こるなどがあがりました。二酸化炭素を減らすためにどんなことをすれば良いかについては、シャワーの時間を一日1分でも短くし、節電節約に心がける、ゴミの分別をしっかりとる、ゴミ拾いや花植え、木を植えたりしたボランティア活動の参加、車はあまり使わず、排気ガスを出さないようにするなどがあがりました。

こどもから高齢者まで誰もが安心して暮らせる支え合いのまちづくりについて、こどもや高齢者、からだが不自由な人など全ての人がみんなで支え合い安心して暮らしていくためにはどんなまちになっているとよいかについては、気遣いができるまち、ボランティア活動が盛んなまち、障がいがある人や高齢者が暮らしやすいバリアフリーなまち、このバリアフリーには、点字ブロックやスロープの設置などが含まれています。このようなまちにするためにどんなことをすればよいかについては、自動販売機のボタンが届かない人もいるからボタンを低いところにしたり、近くに台を置くなどの工夫をしたら良いと思います。階段がある場所にスロープを付ける、点字ブロックを途切れさせない、電車やバスの中で高齢者の方などに席を譲るなどがあがりました。

ウ ゼロカーボンシティに向けた取組みで地球温暖化が進むとどのようなことが起こるかについては、海面上昇などの異常気象が起こり、我々の住む場所がなくなったり、作物が育たなかったりするということがあがりました。二酸化炭素を減らすためにどんなことをすれば良いかについては、できるだけ再生可能エネルギーを使い、電気を節約する、自動車を使わずに自転車や徒歩で行くなどです。しかし、私たちの学校周辺では自家用車を使わないと行けない場所が多くて、公共交通機関を使いたくてもバスの本数が1時間に1本しかなかったりするので、これは市に提案したいと思います。他にもペロブスカイト太陽電池というペラペラな太陽発電の電池を取り入れたり、青梅一中では「SDGs 青梅一中ヴァージョン」をつくっていました。

二つ目のこどもから高齢者まで誰もが安心して暮らせる
支え合いのまちづくりで、どんなまちになっていると良いか
については、地域で災害時に備えた取組みをしていたり、バ
リアフリーを設置している、そして夜道などに危険がない地
域という意見があがりました。このようなまちにするために
我々が考えたことはユニバーサルデザイン、バリアフリーを
増やし、身体が不自由な人のことを知ってもらうための呼び
かけ、例えばパラスポーツなどを行うことです。他にも地域
と協力した取組みを行うことがあがりました。

9 学校アンケート

(1) アンケート回収状況

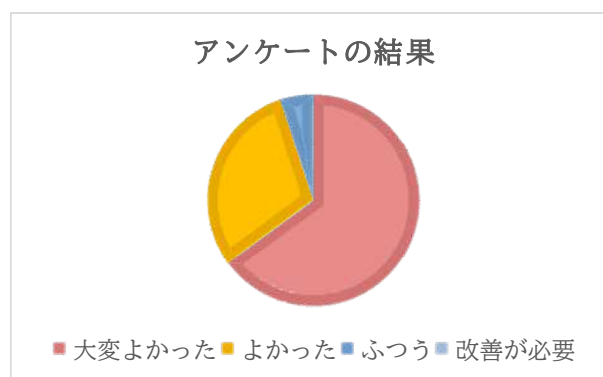
【全体】 40名

大変よかった… 26名

よかった… 12名

ふつう… 2名

改善が必要… 0名



(2) 令和5年度「中学生オンライン交流会」における各中学校からのテーマ発表について

ア 生徒

- ・各学校が意見を出し合い、質問をしあい、こういうのは今後の話し合い活動などで率先して発言していく僕らにとってとてもいい経験になった。
- ・それぞれの学校で考えてまとめたことをスムーズに発表できたと思う。どの学校も全く違った意見が出て、自分の視野を広げることができた。
- ・自分達の学校だけでなく、青梅市中の中学校の意見を聞いたことで、視野が広がり、より良い意見を出すことができた。どの学校もきちんと丁寧に調べ、まとめられていてとても良い学びを得ることができた。来年度以降も続けてほしい。

- ・各学校の意見に対して質問や賛成の意見がたくさんあがって話し合いを深めることができたことが良かった。
- ・自分では考えられないような意見がたくさんあったので新しい視点で見ることができて良かった。また、個性を大切にしていくということがとても素晴らしいなと思った。青梅市長も見ていたということで少しでも私たちの意見が届くといいなと思った。
- ・他校の生徒と関わることが今まであまりなかったので様々な意見を聞けて良かった。
- ・自分たちが考えたことを他の中学校の生徒と共有することで新たな発見や違った視点からの意見を知ることができてとても充実したオンライン交流会だった。

イ 学校関係者

- ・前向きな発信が生徒から出され、とても頼もしく感じた。また、青梅市内において、学校の周辺環境が大きく異なることに驚きを感じている様子であった。本校は少人数であるため、また、幼少期より同じ環境で育ってきた生徒が在籍しているため、他校との交流自体に期待感を抱いていた。各中学校からのテーマ発表については、1のテーマは議論が活発でしたが、2のテーマについては討論が難しく、発表に苦労しているように見えた。
- ・自分たちの生活している青梅について考える良い機会になったと思う。自分達で理想の青梅市について真剣に考え、交流できる機会は今後必要だと思う。
- ・様々な意見が出ていて良い交流会だったと思う。
- ・こうした機会で他校の生徒会役員と関わりを持てること、青梅市や学校のことを考え、生徒たちの視野が広がることの良いと思う。生徒の感想にもそうしたことが書かれていた。

(3) 自由意見

ア 生徒

- ・今回の交流を通して、話し合いでは、自分では思いつかな

い意見や、納得させられるような新しい発見を見つけることができた。

- ・是非グループワークの時間をもう10分程度増やしていただきたい。今回や時間が足りなかった。
- ・他校でしている取組がそれぞれ自分の学校がどのように思っているのかという意見を知れたのは自分にとっても学校にとっても良いことだと思う。これを機に学校を変えていきたいと思った。
- ・他の学校と交流ができるから楽しかった。
- ・青梅の市長に意見を伝えることができたので良かった。これで未来の青梅が明るくなっているなと思った。
- ・少し時間が足りず、全員の意見や感想などを聞くこともできなかったのもう少し時間がほしかった。
- ・他の中学生と交流できてうれしかった。オンラインも便利ですが、実際に会ってやる交流会も参加してみたい。実際に会うことで、意見交換がしやすくなると思う。

イ 学校関係者

- ・2のテーマに参加した生徒からは、自分たちの提案がどのように市政に反映されるのか、関心を高めているようだった。過年度分今般の青梅市総合計画に一覧として掲載されていたが今回出された提言、一つ一つに市としての見解をまとめ、伝えていただけると生徒の納得感、成就感の高まりにつながると思う。未来の有権者となるこどもたちが「自分の声で市政が動く」という気持ちを持てるよう各校の提言に対して、丁寧に見える化した形で回答いただけるありがたい。
- ・途中回線が切れてしまうことがあったが、一つの会場に集まって話し合うより効率的なので、来年もオンラインの交流会という形でお願いしたい。
- ・司会をした生徒がとても楽しかったようで、こうした機会が年間に数回あるといいというコメントもあった。